

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第16回

栃木県小山市消防団

今回は東京圏から約60キロメートル、栃木県南都に位置する小山市をお訪ねしました。

昨年の9月に発生した記録的な豪雨では甚大な被害を受けられ、また、10月に開催された第22回全国女性消防操法大会では、同市の女性消防隊が準優勝されたと聞きました。9月の災害時の被害状況・消防団の活躍、10月の大会での女

性消防団員の皆さんの奮闘、現在取り組まれている防災対策などをお尋ねしたいと思います。

それでは、小山市消防団の五十畑哲義団長、信末正雄副団長、女性消防隊の斎藤智美隊長、鮎川小夏隊員、そして小山市消防本部の薄井博之主任、菅原康一主任の皆さんからお話を伺いましょう。



左から、薄井博之主任、五十畑哲義団長、斎藤智美隊長、ダニエル・カール、鮎川小夏隊員、信末正雄副団長、菅原康一主任（小山市消防本部で撮影）

小山市と消防団の概要について

ダニエル まず小山市の概要について教えてください。

五十畑団長 小山市は「水と緑の大地」の豊かな自然と古い歴史を有し、ラムサール条約湿地登録の「渡良瀬遊水地」やユネスコ無形文化遺産登録の「本場結城紬」など世界に誇る宝がたくさんあります。

ダニエル 花火大会が名物だと伺いました。

五十畑団長 小山駅から300メートルのところに、一級河川の「思川おもいがわ」があります。そこで毎年夏に花火大会が行われ、2万発以上の花火が打ち上げられます。駅から近いということでアクセスも良く、観客が毎年40～50万人くらい集まって、私たちは関東一の花火大会だと思っています。

ダニエル 思川、いい名前ですね。新幹線も通って、交通の便がいいという印象がありますが、このあたりは農業も盛んですか。

五十畑団長 小山市は東側が工業地帯で、真ん中が商業というか住宅地で、思川の向こう（西側）が農村地帯となっているので、ちょうど全部揃っている感じですね。

ダニエル 住みよいところですね。人口はどのくらいですか。

五十畑団長 人口は16万6千人で、宇都宮に次いで県下第二位です。栃木県の中でも人口が増えているところです。自然にも恵まれていますが、今回は川の増水による浸水被害が出ましたので、いいことばかりではありませんね。歴史的には、徳川家康が関ヶ原の戦いに行くときに、ここ小山の地で開かれた「小山評定」という軍議が有名です。その後、関ヶ原で大勝利をおさめたということで、「開運のまち」でもあります。

ダニエル ありがとうございます。では、消防団についてご紹介をお願いします。

薄井主任 現在、小山市消防団は市内を5つの方面隊に分けておりまして、全部で18分団あります。それ以外に、消防団本部に「女性部」と、後方支援及び応急手当を行う「機能別消防団員」があります。

五十畑団長 団員数は686名で、平均年齢は40.9歳です。全国的には団員不足が問題視されていますが、幸い小山市では去年は満杯状態でした。条例定数を増やしました。



花火大会の様子

女性消防隊「おやまファイアーレディーズ」について

ダニエル 平成27年10月の第22回全国女性消防操法大会で「おやまファイアーレディーズ」が準優勝されたということで、おめでとうございます。

齋藤隊長 **鮎川隊員** ありがとうございます。

ダニエル 何人くらいのチームですか。

鮎川隊員 全部で11名です。

ダニエル 全員若い人たちが集まっているのですか。平均年齢はどのくらいでしょうか。

齋藤隊長 はい、若手職員です。年齢はちょっと…女性ですので(笑)。

菅原主任 栃木県の代表なんです。

ダニエル ほお、すごい。大会はいつ行われたのですか。

斎藤隊長 昨年の10月15日です。

五十畑団長 実は茨城は常総市が代表だったのですが、あの水害で出られなくなってしまったんです。(茨城県代表は平成27年9月関東・東北豪雨による被害のため出場辞退)

ダニエル 10月では、ちょうど水害の少しあとくらいですね。

五十畑団長 ですから、うちも肝心なときに一週間くらい訓練ができませんでした。



女性消防隊の訓練の様子

ダニエル 訓練は月に何回くらいやるのですか。

斎藤隊長 4月入ってからは週に2回程度、2時間くらいだったかな。

鮎川隊員 そうですね。

ダニエル ある程度スペースも必要ですね。どこか訓練できるグラウンドがあるのですか。

斎藤隊長 ここの下(消防本部の前)で、練習させていただいていました。

ダニエル え、ここでやるの? 夏の暑い日はまだいいとしても、真冬はちょっとつらいですね。

鮎川隊員 そうですね、寒かったですね。

ダニエル 各都道府県から1チームが出てということは、栃木県内にも優秀なチームがいっぱいあるんじゃないですか。

斎藤隊長 栃木県では毎年持ち回りで各市が順番にやっている状況で、今回の大会については小山市が栃木県の代表だったんです。

ダニエル なるほど。たまたまのタイミングで出て、準優勝ということは優秀ですよ。毎年(小山市を)出せばいいんですね。

菅原主任 そういう声もあちこちからあがっています。「来年も出たい」と。

ダニエル 苦勞するところもいろいろあったかと思うのですが、いかがですか。

斎藤隊長 大会の優勝を目指して結成されたわけなのですが、その女性消防隊の隊員になったのが、それまで消防操法について何も知識がないようなメンバーだったので。最初に基本となる動作の礼式訓練から始めたのですが、そこから戸惑っているような状況で、そういう動作をまず覚えるというのが、とにかくたいへんでした。

五十畑団長 それこそ、消防を全く分からない状態から始めているので。実際に訓練に入れたのは4月頃で、その短期間で準優勝できたことを考えると、いかに優秀かということですね。

ダニエル 素晴らしいですね。皆さん普段はどのような仕事をなさっているのですか。

鮎川隊員 今回のメンバー11人、みんな市役所の職員です。

ダニエル 市役所の方が消防団員になるというのは、なんだかすごく分かります。町のことも詳しいし、地域のためというか、やはり守りたいという気持ちが強いんですね。準優勝したときは、皆さん大喜びでしたか。



対談の様子

鮎川隊員 そうですね。嬉しいのと、やはり優勝したかったという思いが強かったメンバーもいました。

五十畑団長 黄色い的を落とすまでの時間を計るのですが、全国でトップのタイムだったんです。けれど、少し減点の部分があったので、準優勝になってしまったのですが。

ダニエル トップのタイムだったのですか。それでは、嬉しいけれども、悔しくもありますね。

斎藤隊長 タイムがトップということで、終わった後、優勝かなとみんなで盛り上がっていたら準優勝だったので、悔しさも残りましたね。



消防団サポート事業について

ダニエル 平成26年6月から「消防団サポート事業」を開始したと伺いました。事業の概要、取組状況について教えてください。

五十畑団長 今現在、194事業所に加盟しても

らっています。消防団員が利用者証(団員証のようなもの)を見せると、市内のお店で何らかの特典が得られるというものです。消防団員にとっては商店街や地域から優遇されるという福利厚生的なもので、そしてお店としてはPRになるという感じですよ。最近、商店街はどこもたいへんで、廃れているという部分もあると思うのですが、一方で小山市には700名近い団員がいて、その家族も合わせると結構な人数になります。その人たちが優先的にサポート事業所を使っていただくと、お互いの幸せになるだろうということで始めました。

例えば、お店に行くと通常1,000円のところが900円になりますよ、といったものです。サービスの内容はそれぞれの店に任せているんですが、例えば飲食店など価格的なサービスはできないけれど、一品何かつけますとかですね。日頃、消防団員として地元に貢献しているんですから、何らかの特典じゃないですけど、地域のお店でも応援していますよという感じで協力してもらっています。

ダニエル なるほど。サポートと聞くとサポーターのような、皆さんがプレイしているときに頑張れと応援するイメージがあるのですが。

五十畑団長 そういう部分もありますよね。うちの店では商品提供はできないけれども、ポスターなどの掲示は積極的に行いますということもあるので、要するに応援団ですね。

ダニエル 物理的にいろいろ応援してくれるというのも、都会では必要ですよ。平成26年からスタートして、今2年弱くらい経ちましたけれどもいかがですか。

薄井主任 皆さんにご協力いただいて、ちょこちょこ増えているような状態ですね。

ダニエル 少しずつ進歩している状態です

ね。完璧になるまでは何年かかかりますよね。でもそういうことよりも、いつまでも続くということが目的でしょうね。これは面白い試みですね。

過去の印象的な災害

ダニエル 過去に小山市で起きた災害の中で、印象に残った災害はありますか。

信末副団長 平成3年に私の地元で起こった火災が、鎮火までに2か月間くらいかかったことがありました。9月の末に起こって、鎮火が11月です。

ダニエル ええ！すごい長いですね。

五十畑団長 大きな火事ではないのですが、産業廃棄物ですね。家を壊した廃材、解体の木材とかが山になっているところに火がついちゃって。

信末副団長 一報を受けて消防団全員で駆けつけたんです。そうしたら、本当に10mくらいの野積みで、下が分からないんですよ。上から落ちたものが、音が聞こえないくらいで。それを消していたんですけど、小山市の職員も消防団も、全員で24時間水をかけ続けて。

ダニエル 24時間体制で、2か月くらいですか。

信末副団長 丸2か月ですね。産廃なので、要するにゴミとかが野積みになっていて、入っちゃうと、消えないわけですよ。

ダニエル 似たような話が被災地でもありましたね。壊して集めた後に、なぜかその中に火がついて、水をかけてもなかなか消せなくて、ずっと煙が出っ放しという。やっぱり一度火が入ると、外からは消せないんですね。でも、ほったらかすと危ないですもんね。皆さん24時間体制で戦ったわけですか。

信末副団長 消防団全員でローテーションを組みました。

ダニエル そうですよね、消防士も行っていたとは思いますが、24時間はなかなか見張れないですよね。

五十畑団長 市の職員はやはりそのほかの火事などに備えなければならないですから、結局はある程度、団でやらざるを得ない状態でした。

ダニエル 消防団でこういう話を聞いたのは初めてです。これは、特に準備できるものではないですよね。想像外の、未曾有の火事に近いですね。でも、やはり消防団があったから、町が助かったんですね。

防災対策と今後の取組について

ダニエル 現在取り組まれている防災対策について教えてください。去年は鬼怒川が氾濫して、ニュースになりましたが。

五十畑団長 平成27年9月9日、10日の関東・東北豪雨では、小山市も大きな被害を受けました。鬼怒川は小山市内にも少し流れているんです。あとはすぐ近くに思川がありまして、川から向こうがちょっと低いんですね。(写真を見せて) それだけの広い河川敷が水浸しになったということです。



小山市を流れる「思川」

ダニエル うわあ、これは鬼怒川ですか？え、これが思川ですか。こんなに氾濫したんですか。

薄井主任 氾濫というか、決壊はしなかったんです。

五十畑団長 この思川というのは一級河川で、要は本流がいっぱいなので、そこへ流れ込む支流のみ込めないんですよ。そこが結局は越水したような状態です。ですから、思川そのものは堤防が決壊したわけではないんです。

ダニエル なるほど、そうですね。

五十畑団長 それでも道路や農畜産等が甚大な被害を受け、住宅1,525棟（床上浸水932棟、床下浸水593棟）が浸水被害を受けました。

薄井主任 消防団は5日間にわたり、延べ1,270名が出動して、降り続く豪雨の中、昼夜にわたり水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、人命救助活動を行い、被害の軽減に努めました。

五十畑団長 一晩中、消防団員が連携して住民救助にあたってくれて、死傷者を一人も出さずに済んだという状況ですね。

信末副団長 今回、特に団員が活躍してくれたのは、消防団は地域のボランティアなので、どこに高齢者がいるか分かっているんですよ。避難勧告が出て、自分たちも「避難お願いします」と回ったのですが、中には「嫌だ」と言う方がいます。

五十畑団長 だけど、例えば隣のお兄ちゃんに來られたら、「ああやっぱり避難しよう」となったりするんですよ。

信末副団長 そこにうちの団員が気づいて、「あそこのおばあちゃんは動くの嫌だ」ということになる、最終的にはその団員が行って説得したんです。それが今回発揮できたのは良かった

たなと思います。

ダニエル 特にご年配の方は、どこの誰だか分からない人に一緒に避難しましょうと言われても、知り合いでないと嫌だということですよ。そのあたり、ここは消防団員さんのネットワークがうまくできているのではないですか。

信末副団長 住んでいる地域にもよりますね。中心部だとやや厳しい部分もありますが、農村部になると、近所である程度の年齢になったら必ず団員に入らなければならないといった風習が残っている地域もあるので。

五十畑団長 そういう地域では、近所の団員がどこの誰か、ほとんど顔が分かっているわけです。

ダニエル アメリカにもそういう習慣があったら、僕もきっと今ごろ消防団員になっていたと思います。子供の頃は父に憧れて、父のように消防士になりたかったんだけど、なしか、日本に興味を持って、結局山形弁研究者になっちゃいました(笑)。なんか、人生っている面白展開があるなあと思います。ときどき講演をするのですが、被災地について話を取り上げると、絆というのが最近流行り言葉のようになっています。けれども、災害がくる前から、絆ができてなければいけないですね。

五十畑団長 改めて言うものではないですけどね。

ダニエル そうですね。絆があったからこそ、お互いに助け合ったり、人が亡くならず済んだわけです。ただ、こういう水害というのは、対策が難しいですよ。どこで雨が降るかによって、氾濫の仕方や溢れ方が全然違って来るわけですからね。町の中で低いところ、一番危ないところというのは皆さん把握していますか。

五十畑団長 ハザードマップ的なものはでき

ているのですけれど、でも実際起きてみると、なかなかという部分もあります。やはり自然は想定外のことが起きるものですから。

ダニエル 災害で一番心配しなければならぬのは、やはり大雨ですか。

五十畑団長 大雨も大きな被害というのは今までほとんどなかったのですが、いかんせん、去年のは強烈でした。逆に言うと、災害が少ないという部分はありますね。雪もそんなにないですし、台風もそんなにきません。

ダニエル 恵まれている地域ですね。

五十畑団長 ですから、みんな性格が良くなっちゃって(笑)。



ダニエル 昨年の水害では、住民の人たちも驚かれたでしょうけれど、これから皆さんと一緒に訓練なども考えていかななくてはならないですよ。

五十畑団長 そういうことですね。小山の場合、今、自主防災組織が42くらいあります。自助・共助・公助とよく言われていますが、公助の部分がなかなか難しいです。小山市の人口が16万6千人で、野木町も合わせるとだいたい20万人近くいて、市の職員が200名しかいないで

すから、とてもじゃないけど大規模、広域で災害が起きた場合には、自分の命は自分で守るという感じでやってもらうほかないわけです。消防団としては、どこまでできるかということですね。

ダニエル なるほど、難しいですね。でも、川はいつか氾濫するものだから、氾濫したら消防団がどう動くかというのを、今一生懸命考えているところですね。

五十畑団長 はい。今回、実際に起きているわけで、次いつ起きるかは分からないですから、そのときに向けて備えなければなりません。これを経験として、団として何ができるかというのをやっていかなければならないですね。

ダニエル 本日は皆さんいろいろと貴重なお話をありがとうございました。

対談を終えて

町が大きくなればなるほど、人と人との距離がどうしても発生してくるわけですが、小山はまだ大丈夫そうですね。田舎と都会の部分が共存していて、そこがいいなと思います。やっぱり絆とかネットワークとか近所付き合いとか、若い人は面倒くさいと感じたりもするんですけども、それがいざというときには大切なんですよね。すっかり小山のファンになりました。今度はぜひとも、花火を見ながら名物のうどんを食べて、小山ブランドの日本酒を試してみたいと思います。

小山市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。(ダニエル・カール)